小児の白血病

1）　小児急性リンパ性白血病（ALL）は，わが国では年間約 600 例の発症があり，その治療成績は飛躍的に向上してきている。当院（石川県立中病院小児内科）は，小児癌・白血病研究グループ（Children's Cancer and Leukemia Study Group：CCLSG）に属し，現在「小児急性リンパ性白血病に対する多施設共同後期第二相臨床試験」に参加し，ALL の治療を行っている。

2）　乳児急性リンパ性白血病は，他の小児期に発症する ALL と比較して予後不良で，特に MLL 遺伝子再構成陽性例は，強力な化学療法にもかかわらず早期に再発する。当院は日本小児白血病・リンパ腫研究グループ（Japanese Pediatric Leukemia/Lymphoma Study Group：JPLSG）に参加し，「乳児急性リンパ性白血病に対する早期同種造血幹細胞移植療法の有効性に関する後期第Ⅱ相試験：MLL03」の協力病院として登録され，主に化学療法を担当している。

3）　急性骨髄性白血病（AML）は，小児期に発症する白血病の約 25%を占め，年間 150 例前後の発症である。当院は，JPLSG の「小児急性骨髄性白血病に対する多施設共同後期第Ⅱ相臨床試験：AML-05」に参加し，AML の治療（主に化学療法）を担当している（但し，急性前骨髄性白血病，二次性 AML，骨髄異形成症候群関連，NK/myeloid leukemia，顆粒球肉腫，ダウン症に発症した AML を除く）。